

All Gakuyukai
Family Concert



2011年7月2日（土）

開演 13:15

慶應義塾 日吉キャンパス 協生館

藤原洋記念ホール

Program

〈 第 1 部 〉

ギボンス同好会 (混声合唱) 指揮：齋藤 彬 (55期)
O・ギボンス作曲 「Hosanna to the Son of David」

楽友三田会OSF男声合唱団
指揮：遠藤琢雄 (7期) ピアノ伴奏：藤田まり子
土井晩翠 作詞・瀧廉太郎 作曲 「荒城の月」
林 柳波 作詞・本居長世 作曲 「婆やの家」
小田切清光 作詞・鈴木憲夫 作曲 「ほほえみ」

楽友三田会OSF女声合唱団
指揮：筑紫武晴 (1期) ピアノ伴奏：藤田まり子
江間章子 作詞・中田喜直 作曲 「夏の思い出」
サトウハチロー 作詞・中田喜直 作曲 「夕方のおかあさん」
深尾須磨子 作詞・中田喜直 作曲 「忘れな草」

男声合唱団「羅漢」 指揮：福井良太郎 (12期)
北原白秋 作詞・多田武彦 作曲 「柳川風俗詩」

Vingt × Cent 会 Chor (混声合唱)
指揮：伴 博資 (11期) ピアノ伴奏：平岩政子 (15期)
J・S・バッハ 作曲 コラール第 147 番より「主よ 人の望みの喜びよ」
W・A・モーツァルト 作曲 証聖者のための晩課より「主を讚美せよ」

W・A・モーツァルト 作曲 「Ave verum corpus」(全体合唱)
指揮：眞野咲子 (46期) ピアノ伴奏：平岩政子 (15期)

〈 第 2 部 〉

村瀬和子 (3期；独唱) ピアノ伴奏：川島和子
ロッシーニ 作曲 オペラ「タンクレーディ」より「この胸の高鳴りに」
ヴェルディ 作曲 オペラ「ドン・カルロ」より「徒な美貌よ」

竹内知子 (23期；独唱) ピアノ伴奏：山形リサ
ヴェルディ 作曲 「ストルネッロ」
サン＝サーンス 作曲 オペラ「サムソンとデリラ」より「あなたの声に心は開く」

飯田武昭 (6期; サクソフォン演奏) ピアノ伴奏: 山崎真紀子
久石 譲作曲 アニメ「ハウルの動く城」より「人生のメリーゴーランド」
Herman Hupfeld 作詞作曲 映画「カサブランカ」より「as time goes by」

森脇恵子 (10期; 独唱) 伴奏: ファイブ・ブラザーズ
Joaquin Prieto 作詞作曲 あらかわひろし 訳詩 「ラ・ノヴィア」

峰岸篤子 (8期; 独唱) 伴奏: ファイブ・ブラザーズ
Alec Wilder 作詞・Thad Jones 作曲 「A Child Is Born」

フォー・リフレッシュメン (ジャズカルテット) 伴奏: ファイブ・ブラザーズ
Bobby Troup 作詞作曲 「Route 66」
N.Sherman 作詞・J.Sherman 作曲 「Graduation Day」
B.MacDonald & B.G. de.Sylva 作詞・G.Gershwin 作曲 「Somebody Loves Me」
G.Roland 作詞・J.Coscales 作曲 「In This Whole Wide World」

〈 第 3 部 〉

混声合唱団「忠友会」

指揮: 岡田忠彦先生 ピアノ伴奏: 平岩政子 (15期)
林 古溪 作詞・成田為三 作曲・林 光 編曲 「浜辺の歌」
田中清光 作詞・佐藤 真 作曲 混声合唱組曲「旅」より「行こうふたたび」

慶應義塾大学混声合唱団楽友会 指揮: 杉山哲也 (学生指揮者)
PLUDENTIUS 作詞・Helen Waddell 訳詩
Herbert Howells 作曲 「Take Him, Earth, for Cherishing」

楽友三田会合唱団 (混声合唱)

指揮: 浮橋敬一 (24期) ピアノ伴奏: 藤田まり子
高野喜久雄 作詞・高田三郎 作曲 混声合唱組曲「水のいのち」より

ドイツ民謡「学生歌」(全体合唱) 指揮: 鈴木淑博 (25期)

文部省唱歌「故郷」(全体合唱)

指揮: 日高好男 (14期) ピアノ伴奏: 藤田まり子

小林亜星 作詞・作曲 「青春讃歌」(全体合唱)

指揮: 岡田忠彦先生 ピアノ伴奏: 藤田まり子

青春讃歌

慶應義塾塾歌

見よ 風に鳴る わが旗を

新潮寄する あかつきの

嵐の中に はためきて

文化の護り たからかに

貫き樹てし 誇りあり

樹てんかな この旗を

強く 雄々しく 樹てんかな

あゝ わが 義塾

慶應 慶應 慶應

仲間がそろつたら
みんなで歌おう
青春のうたを

丘の上に花は咲き
森かげに鳥は鳴く
せせらぎに ますは泳ぎ
神は空にしろしめす

友よ
清らなる愛について語ろう
美しいものへのあこがれを
この短い命を燃やそう
輝く「今を」生きよう

この丘に この森に
帰つておいで 嵐はやがて去る
この世が
どのように変わつても
若者の心は変わらない